

産後の母親支援に関するアンケート結果  
＜報告書＞

平成25年 11 月

公益財団法人 山梨総合研究所



## ■ INDEX

1. 調査の概要.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査日時.....	1
(3) 調査対象.....	1
(4) 調査方法.....	1
(5) 本報告書中の記号について.....	1
2. 市町村別内訳.....	2
保健所、市町村の内訳 (SA) .....	2
3. アンケート集計結果.....	3
Q1-1: 年齢 (SA) .....	3
Q1-2: 母親の状態 (SA) .....	4
Q1-3: 子どもの数.....	5
Q2-1: 自分が大変なときにいつでも気軽にお子さんの面倒をみてもらったり、預けられ たりできる育児の協力者はいますか (SA) .....	6
Q2-2: 協力者はどなたですか (MA) (Q2-1で「1. はい」と回答した人) .....	8
Q2-3: 協力者がお子さんの面倒をみてくれたり、預かってくれる頻度はどれくらいですか (SA) A) (Q2-1で「1. はい」と回答した人) .....	10
Q2-4: 育児協力者からの支援は十分ですか (SA) (Q2-1で「1. はい」と回答した人) .....	11
Q3-1: 一番下のお子さんの出産後に里帰りをしましたか (SA) .....	13
Q3-2: 里帰りの期間 (SA) (Q3-1で「1. はい (里帰りした)」と回答した人) .....	15
Q3-3: 里帰りしなかった理由 (MA) (Q3-1で「2. いいえ (里帰りしなかった)」と回 答した人) .....	16
Q4-1: 産後に不安や負担は感じましたか (SA) .....	19
Q4-2: 不安、負担の内容 (MA) (Q4-1で「1」、「2」、「3」と回答した人) ...	21
Q4-3: もっとも不安や負担を感じた時期 (SA) (Q4-1で「1」、「2」、「3」と回答 した人) .....	23
Q4-4: 産後の自身の心身や育児について相談できるところがほしいですか (SA) .....	24
Q4-5: どんな相談先がほしいですか (MA) (Q4-4で「1. はい」と回答した人) .....	26
Q4-6: どのような相談員に相談したいですか (MA) (Q4-4で「1. はい」と回答した人) .....	27
Q4-7: 産後の自身の心身や育児に関する支援を受けたいですか (SA) .....	28
Q4-8: どのような支援を受けたかった、受けたいですか (MA) .....	30
Q4-9: 支援を受けるとして、支払ってよいと思える金額はどのくらいですか (SA) ...	36



## 1. 調査の概要

### (1) 調査目的

進行する少子化への対応として、妊娠・出産時における母親の不安や負担の軽減等に資する新たな産後育児支援の在り方について検討を行うため、県内産前産後の母親に対しニーズ調査を実施する。

### (2) 調査日時

平成 25 年 9 月 9 日から平成 25 年 10 月 13 日まで

### (3) 調査対象

保健所区分	市町村名	サンプル	無効
中北	甲府市、甲斐市、中央市、昭和町	370	1
中北(峡北支所)	韮崎市、北杜市、南アルプス市	177	1
峡東	山梨市、笛吹市、甲州市	304	1
峡南	市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町	145	1
富士・東部	富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村	382	0
不明		49	0
合計		1427	4
有効回答数		1423	

### (4) 調査方法

各市町村等において、乳幼児検診やパパママ教室等で直接配布・回収

### (5) 本報告書中の記号について

n・・・回答者数(number)をあらわす。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

- ※ 複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。
- ※ アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が100%にならない場合がある。

## 2. 市町村別内訳

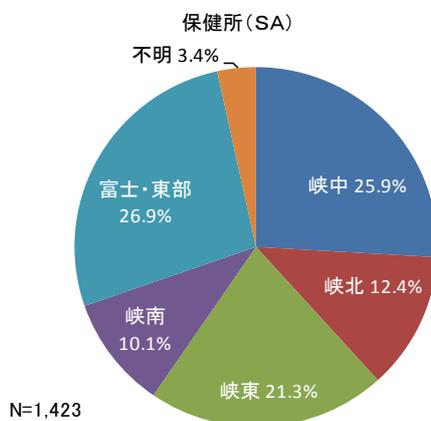
### 保健所、市町村の内訳（SA）

市町村別の内訳は、笛吹市、甲府市、甲斐市が多く、100人を超えている。ついで、富士河口湖町、山梨市、南アルプス市となっている。

保健所別には、富士・東部が最も多く、峡中、峡東と続いている。

#### 市町村（SA）

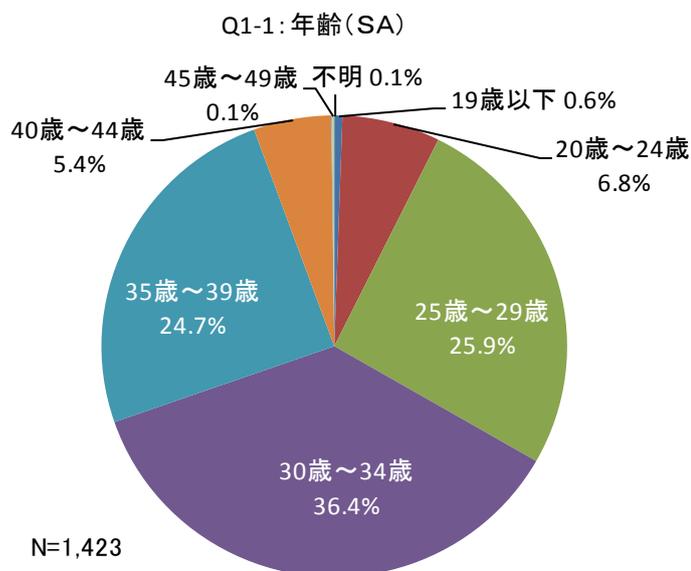
カテゴリ	件数	%	カテゴリ	件数	%
甲府市	150	14.6%	早川町	4	0.4%
富士吉田市	58	5.6%	身延町	26	2.5%
都留市	58	5.6%	南部町	30	2.9%
山梨市	94	9.1%	富士川町	49	4.8%
大月市	36	3.5%	昭和町	36	3.5%
韮崎市	55	5.3%	道志村	7	0.7%
南アルプス市	85	8.3%	西桂町	13	1.3%
北杜市	36	3.5%	忍野村	54	5.2%
甲斐市	133	12.9%	山中湖村	4	0.4%
笛吹市	151	14.7%	鳴沢村	17	1.7%
上野原市	30	2.9%	富士河口湖町	98	9.5%
甲州市	58	5.6%	小菅村	3	0.3%
中央市	50	4.9%	丹波山村	4	0.4%
市川三郷町	35	3.4%	不明	49	4.8%
合計				1,423	100.0%



### 3. アンケート集計結果

#### Q1-1：年齢（SA）

---

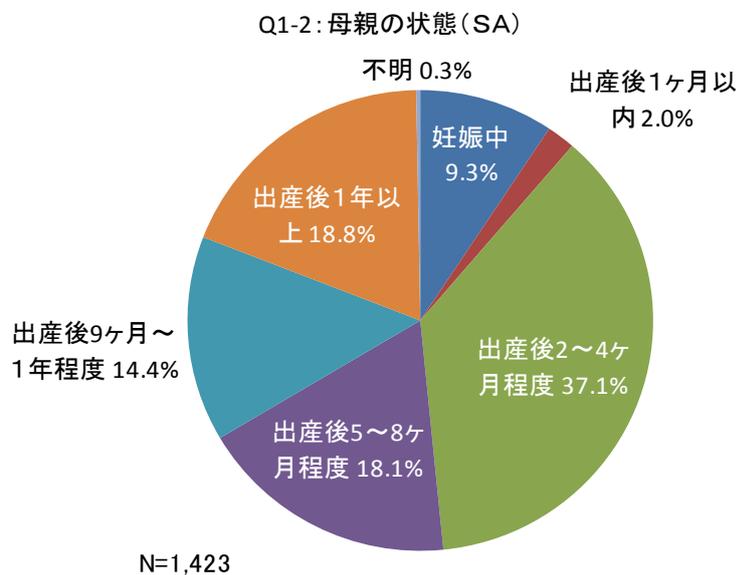


#### 【調査結果】

回答者の年齢は、30歳～34歳が最も多く36.4%を占めた。次いで、25歳～29歳が25.9%、35歳～39歳が24.7%となっている。25歳から39歳で87%を占めている。

## Q1-2：母親の状態（SA）

---

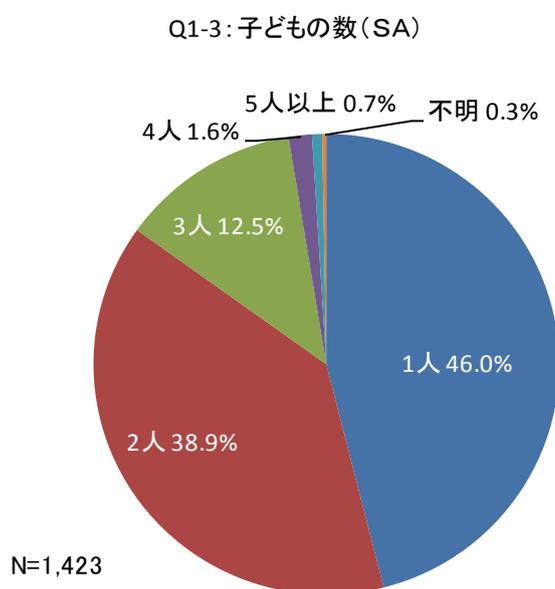


### 【調査結果】

出産後2～4か月の回答者が最も多く、37.1%を占めた。次いで出産後1年以上が18.8%、5～8か月が18.1%、出産後9か月～1年程度が14.4%となっている。

## Q1-3 : 子どもの数

---



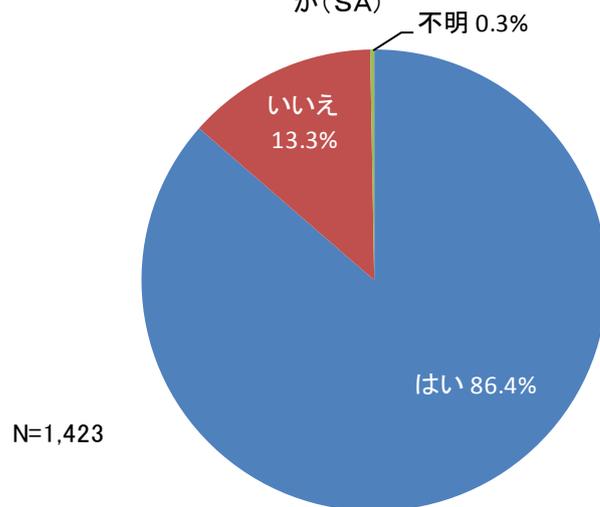
### 【調査結果】

半数近くの46.0%が子どもの数は1人のみであり、2人は38.9%であった。

Q2-1：自分が大変なときにいつでも気軽にお子さんの面倒をみてもらったり、預けられたりできる育児の協力者はいますか（SA）

---

Q2-1：面倒をみてもらったり預けたりできる育児の協力者はいますか（SA）



【調査結果】

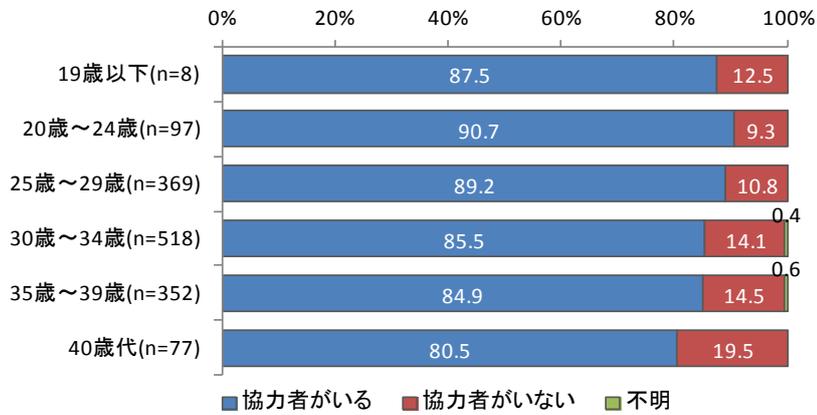
協力者の有無については、86.4%が協力者がいると回答した。

母親の年齢で比較すると、年齢があがるに従って、協力者がいないと回答する割合が増加する傾向がみられる。

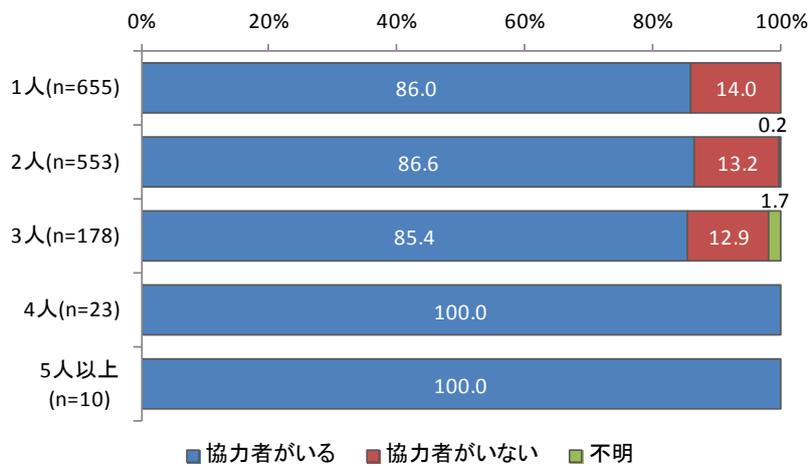
子どもの数による差異はみられない。

里帰りの有無では、里帰りをしない（できない）場合に、協力者がいないと回答する割合がやや高くなっている。

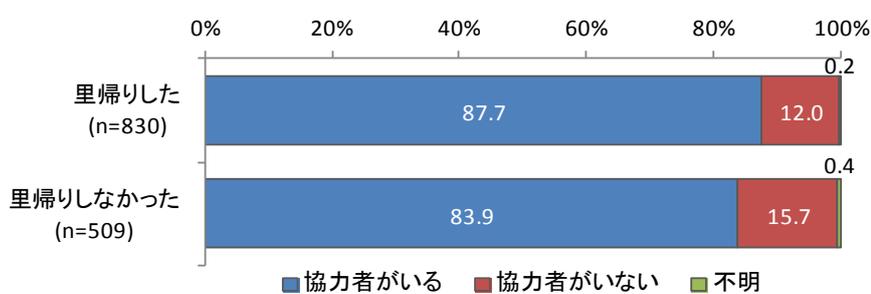
Q1-1: 年齢 × Q2-1: 面倒をみてもらったり預けたりできる育児の協力者はいますか (SA)



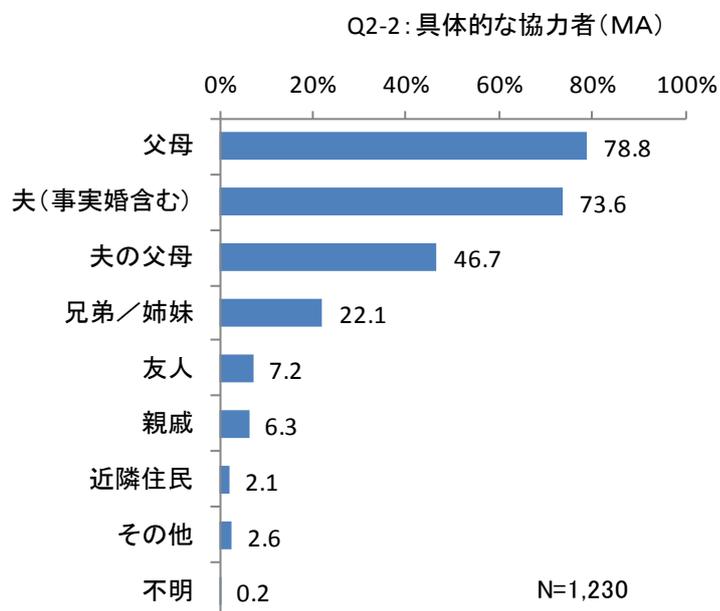
Q1-3: 子どもの数 × Q2-1: 面倒をみてもらったり預けたりできる育児の協力者はいますか (SA)



Q3-1: 里帰りの有無 × Q2-1: 面倒をみてもらったり預けたりできる育児の協力者はいますか (SA)



Q2-2：協力者はどなたですか（MA）（Q2-1で「1. はい」と回答した人）



その他	件数	その他	件数
ファミリーサポートセンター	6	祖父母	1
祖母	4	地域の子育て支援サークル	1
保育所	4	病院、施設等	1
託児所	3	夫の祖母	1
母の父母	2	夫の母と姉	1
ファミリーサポートセンター、病院	1	保育所の一時預かり	1
近所の方、保育所	1	娘	1
叔母	1	無記入	2
親戚	1	合計	23

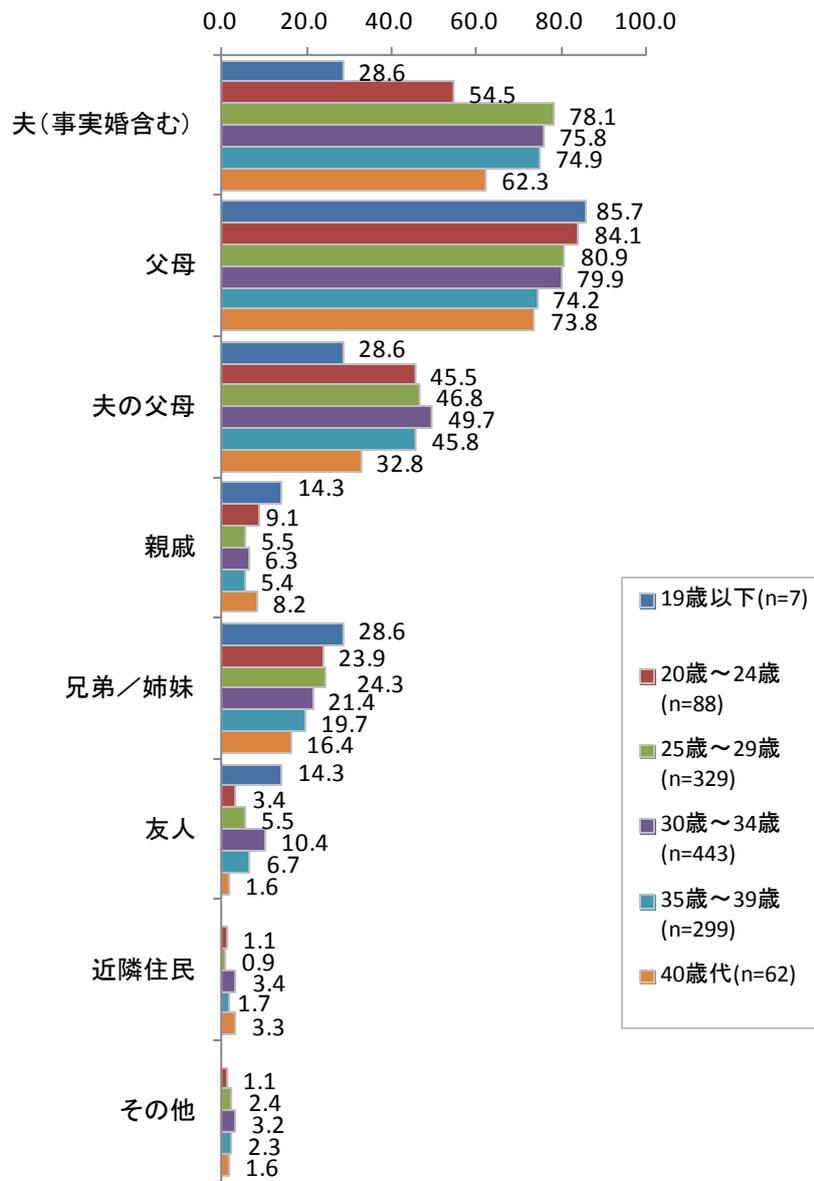
※網掛け部分は、施設等を挙げた回答

【調査結果】

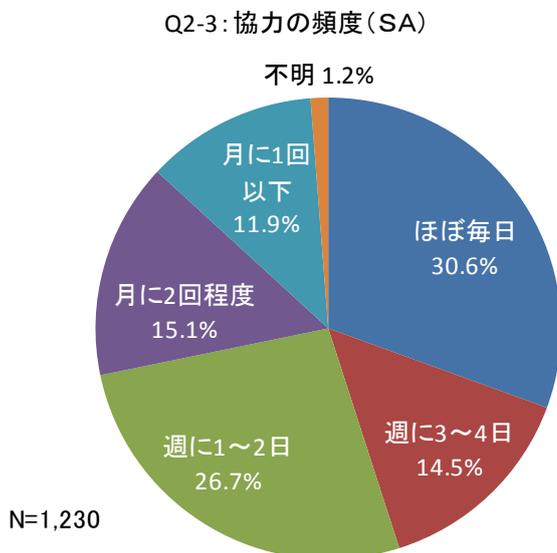
協力者としては、7割以上が父母や夫をあげている。次いで夫の父母が46.7%、兄弟/姉妹が22.1%となっている。協力者として、施設等を挙げたのは、のべ17件(1.2%)のみであった。

年齢別に比較すると、20歳代後半から夫の割合が50%程度から80%近くへと増加している。また、父母や兄弟姉妹は、年齢があがるに従って減少している。30歳代前半は友人と回答した割合がやや高い。

Q1-1: 年齢 × Q2-2: 協力者はどなたですか (MA)



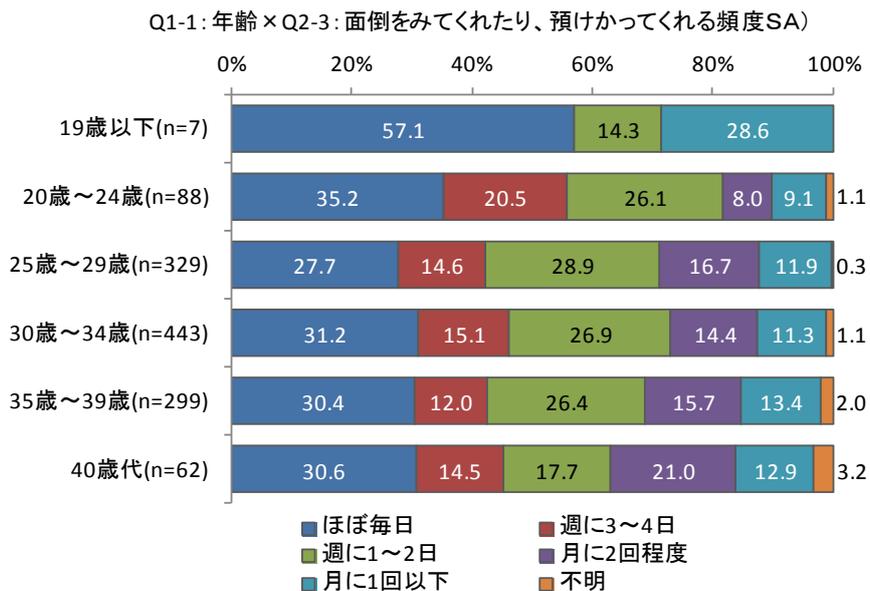
Q2-3：協力者がお子さんの面倒をみてくれたり、預かってくれる頻度はどれくらいですか（SA）（Q2-1で「1. はい」と回答した人）



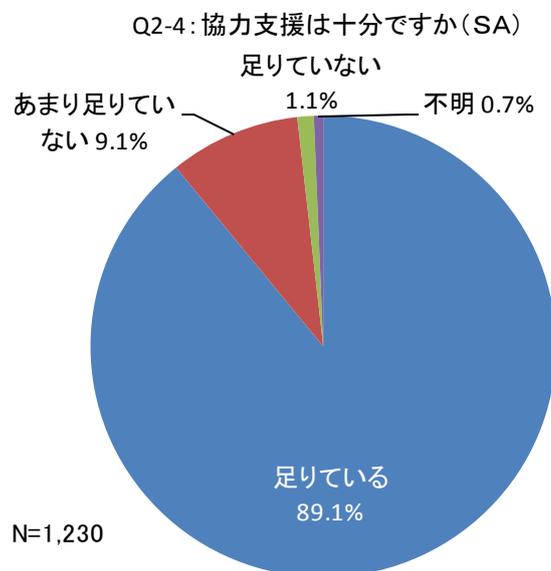
【調査結果】

預かってくれる頻度としては、ほぼ毎日が最も多く 30.6%となっている。一方、月に1回か2回という回答が合わせて 27.0%であり、頻度については回答が分かれている。

年齢別に比較すると、20歳代前半ではほぼ毎日の割合が高く、40歳代になると、週に1~2回までの割合が低くなっている。



Q2-4：育児協力者からの支援は十分ですか（SA）（Q2-1で「1. はい」と回答した人）



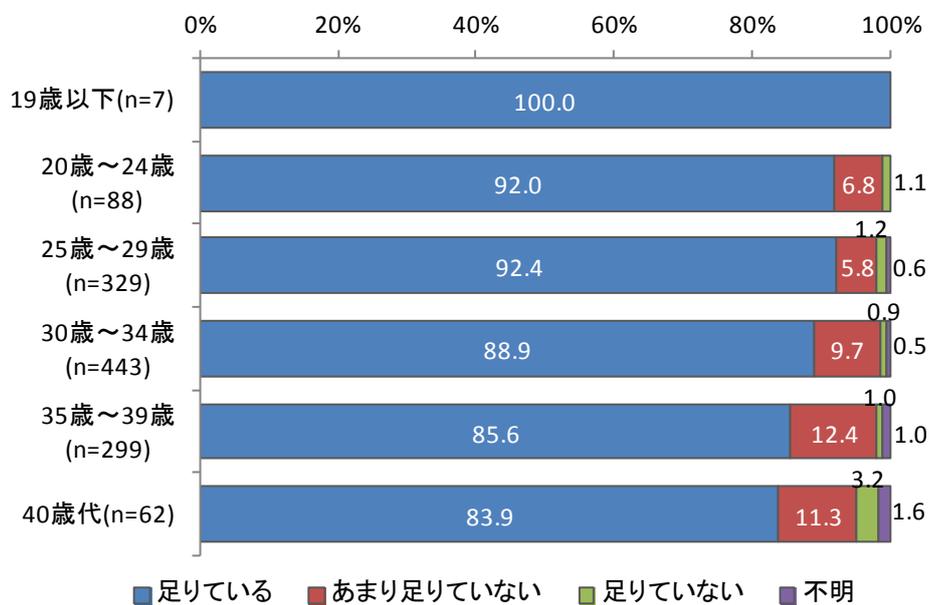
【調査結果】

9割近くが協力支援は「足りている」と回答している。「あまり足りていない」とする回答が9.1%であった。

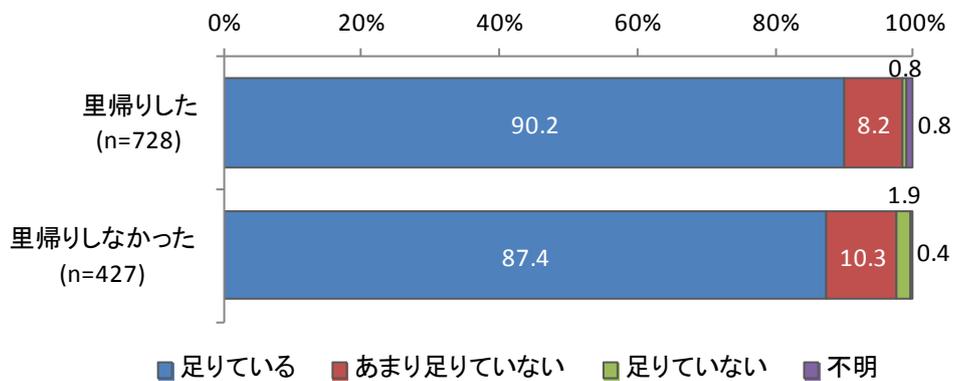
年齢別に比較すると、年齢があがるに従って、「足りている」という回答が減少し、「あまり足りていない」、「足りていない」という回答が増加し、35歳以上では10%を超えている。

里帰りの有無による差異については、里帰りしない場合に、「足りている」と回答する割合がやや低くなっている。

Q1-1: 年齢 × Q2-4: 協力は十分か (SA)

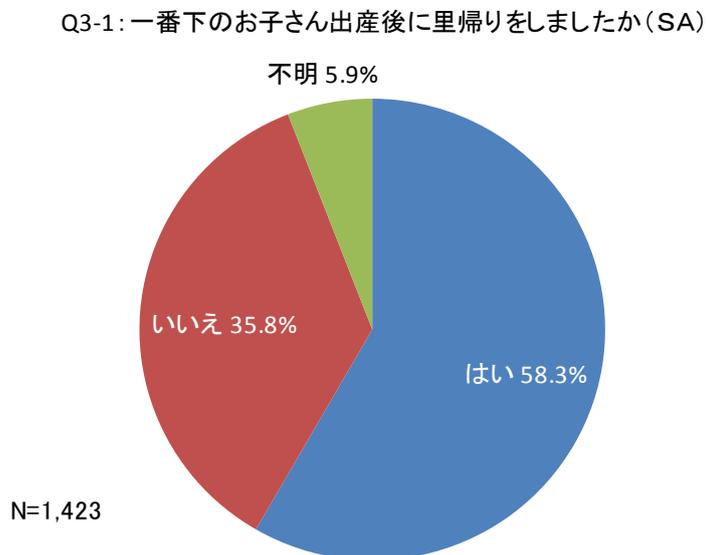


Q3-1: 里帰りの有無 × Q2-4: 協力は十分か (SA)



### Q3-1：一番下のお子さんの出産後に里帰りをしましたか（SA）

---



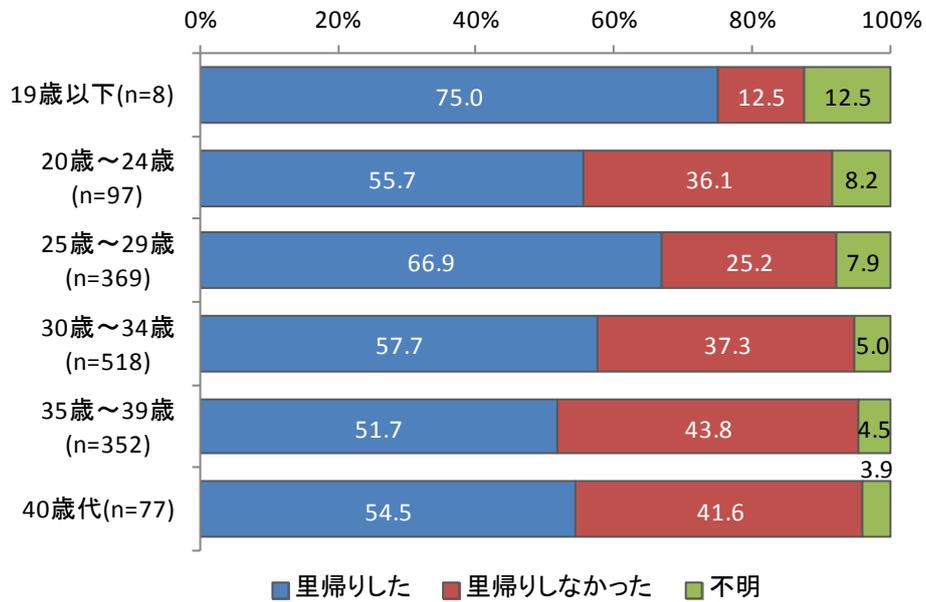
#### 【調査結果】

里帰りをしたのは、58.3%であった。

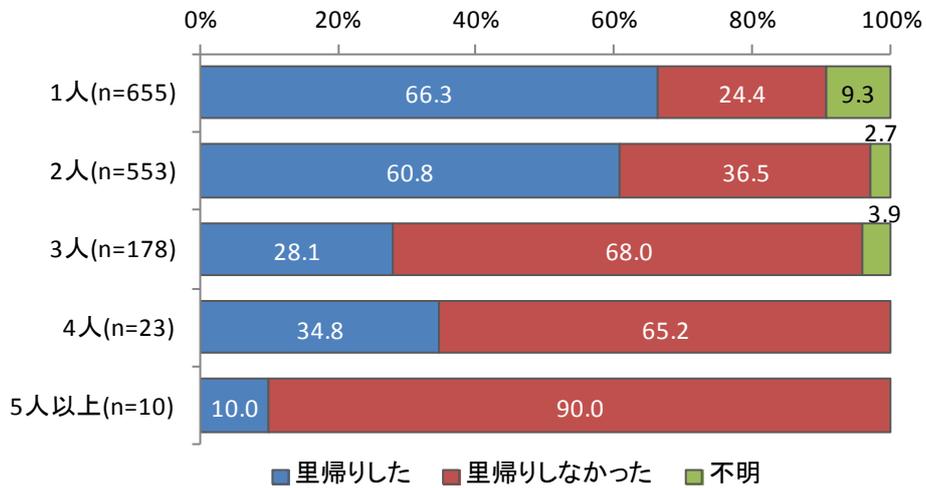
年齢別には、20歳代後半で里帰りする割合が高く、66.9%となっている。その他の年齢層では、概ね55%前後となっている年齢層が多い。

子どもの数でみると、子どもの数が増えるに従って里帰りする割合は減少しており、特に2人以下と3人以上で大きな差異がみられる。

Q1-1: 年齢×Q3-1: 里帰りの有無(SA)

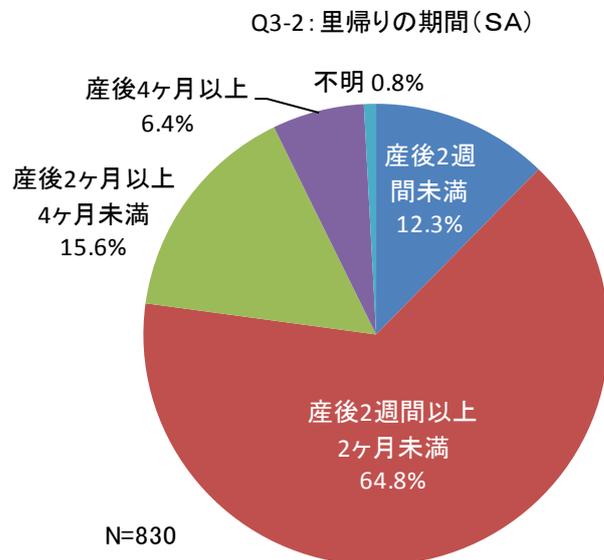


Q1-3: 子どもの数×Q3-1: 里帰りの有無(SA)



Q3-2：里帰りの期間（SA）（Q3-1で「1. はい（里帰りした）」と回答した人）

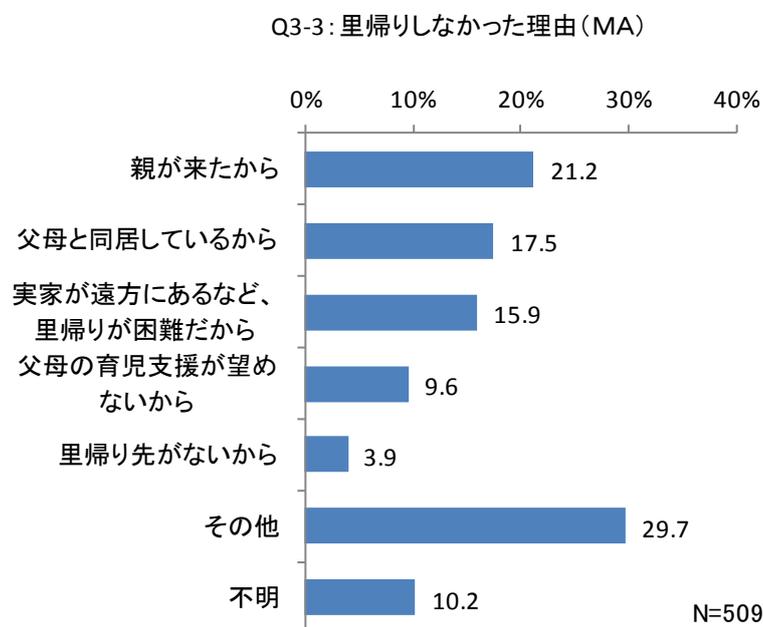
---



【調査結果】

里帰りの期間としては、「産後2週間以上2か月未満」の割合が最も多く64.8%を占めた。次いで、産後2か月以上4か月未満の15.6%となっている。

Q3-3：里帰りしなかった理由（MA）（Q3-1 で「2. いいえ（里帰りしなかった）」と回答した人）

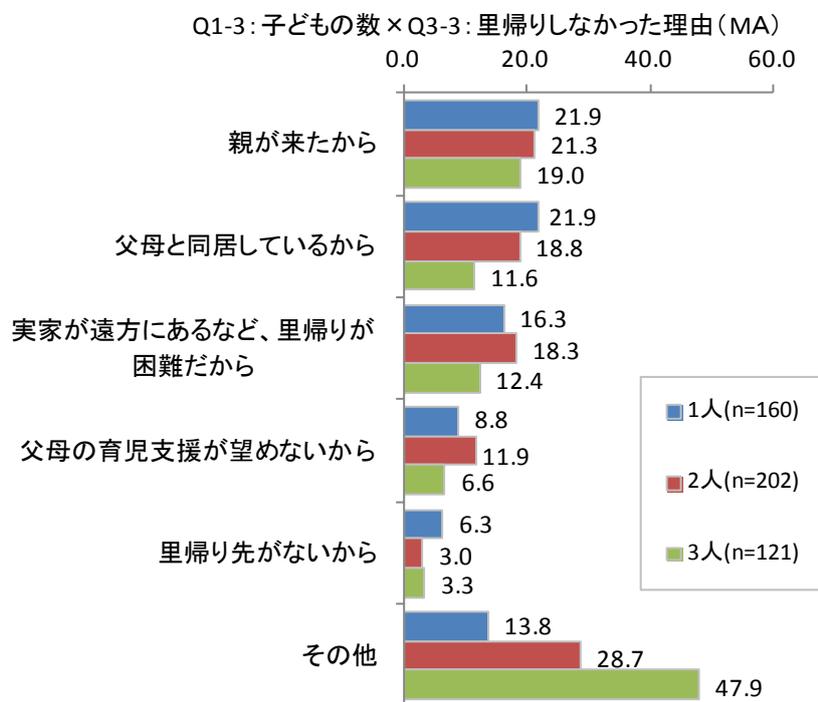


【調査結果】

里帰りをしなかった理由としては、「親が来たから」が最も多く 21.2%を占めた。「父母と同居しているから」が 17.5%で続いており、何らかの形で里帰りしなくても、父母の日常的な支援を受けることができるという理由が最も多い。

否定的な理由としては、「実家が遠方にあるなど、里帰りが困難だから」が 15.9%、その他に含まれる「上の子がいるから」(15.5%) などとなっている。

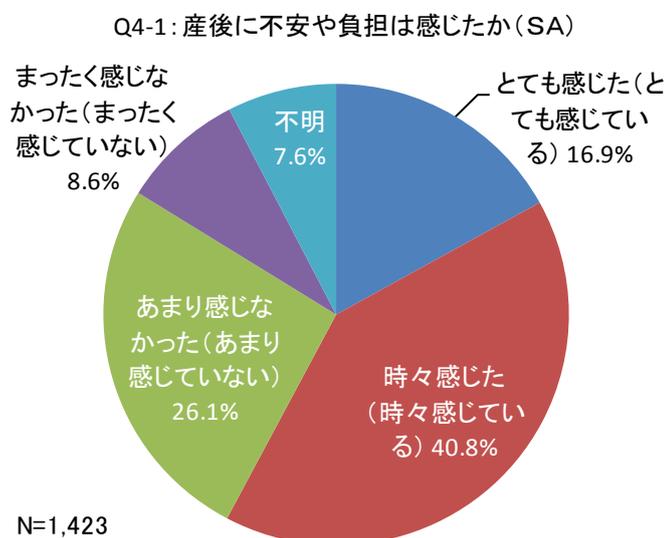
サンプル数が多い1人～3人の子どもの数で比較すると、子どもの数が増えると、その他を回答する割合が大きく増加しており、その他の半数を占めている「上の子がいる」といったきょうだいの関係が理由で里帰りをしていないと考えられる。



カテゴリ	件数	%
①きょうだい関係	79	52.3%
上の子がいるため	78	
夫の実家にお世話になる予定だったが、上の子が情緒不安定になったため中止した	1	
②実家などが近く	21	13.9%
実家が近くだから	17	
近くに住んでいるので。父が病気のため	1	
実家が近くだから。また、帰っても誰もいないから	1	
実家が近くだから。上の子がいるため	1	
祖父母の家が隣にある	1	
③里帰り先の事情	13	8.6%
きょうだい夫婦が親と同居しているため	3	
実家の母がいないため	1	
祖父だけで、弟夫婦たちの家族で面倒がかかるから	1	
動物がいるため。家族が仕事をしているので、負担をかけてしまうと思うので。	1	
母の病気のため	1	
放射能が心配	1	
姪っ子が風邪をひいていたので	1	
里帰り先の環境が悪い(犬、ネコを飼っている等)	1	
両親が高齢のため。また上の子がいるため。	1	
両親が高齢のため	1	
父母が仕事をしていたため	1	

④その他の必要性など	38	25.2%
夫と子育てしていきたかったから	7	
夫の協力があつた	4	
仕事	1	
自宅が一番落ち着いて子育てできると思ったので。	1	
自宅のほうが気が楽だから。上の子がいるから	1	
主人の立会いを希望したので	1	
切迫早産だったため	1	
二人目で不安が無かつたので	1	
必要ない	1	
病院がない	1	
病気	1	
夫が育児休暇を1週間取得	1	
里帰りするより、自分でこなすほうが楽だった。	1	
里帰りする必要がない	1	
里帰りをして、両親が働いているので、意味がない	1	
夫や義母と赤ちゃんを迎えたかつたから	1	
無記入	13	
合計		151件

#### Q4-1：産後に不安や負担は感じましたか（SA）



#### 【調査結果】

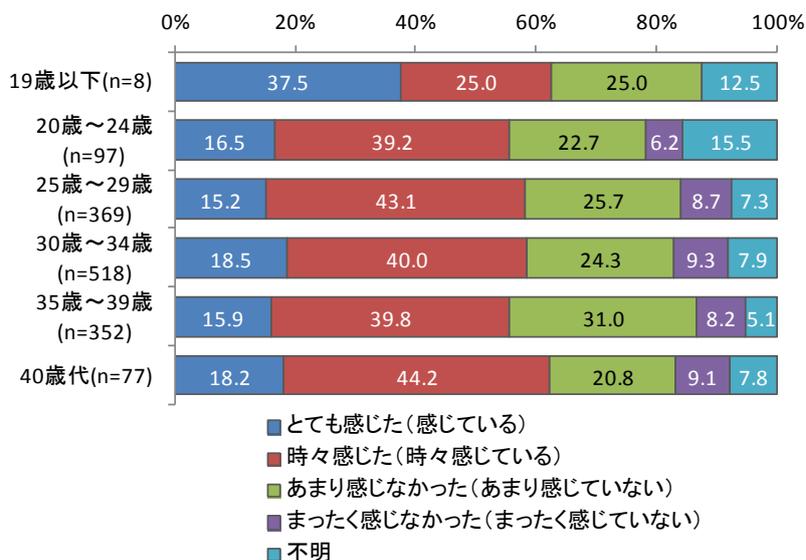
産後の不安については、「とても感じた(とても感じている)」は16.9%であったが、「時々感じた(時々感じている)」が40.8%であり、あわせると過半数が何らかの不安を感じたと回答している。

年齢別には大きな差異は見られなかった。10歳代は不安を感じたという回答の割合が高いが、回答数が少ないため参考値となる。

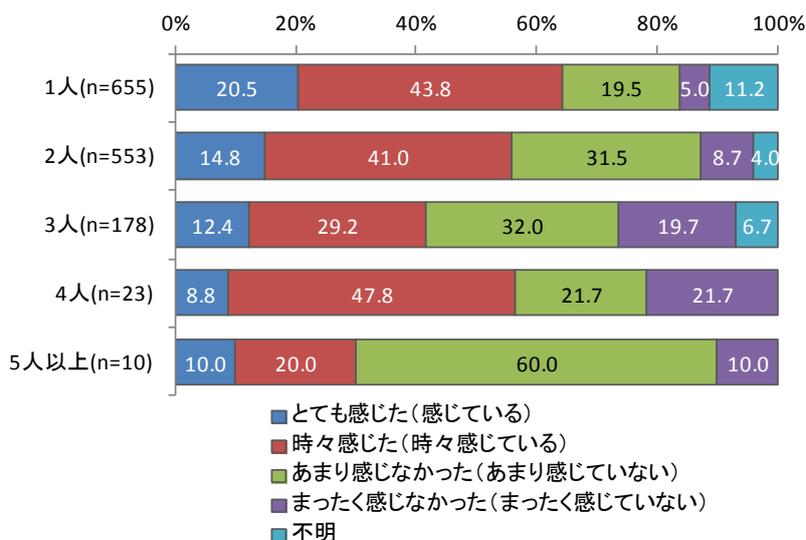
子どもの数で比較すると、子どもの数が増えるに従って、経験もあるため、不安を感じる割合は減少している。子どもの数が4人の場合については参考値となる。

里帰りの有無については、里帰りとした場合に不安を感じる割合が高くなっている。

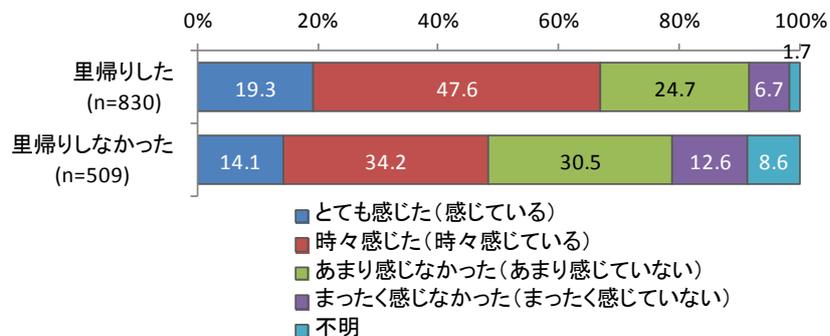
Q1-1: 年齢 × Q4-1: 産後に不安や負担 (SA)



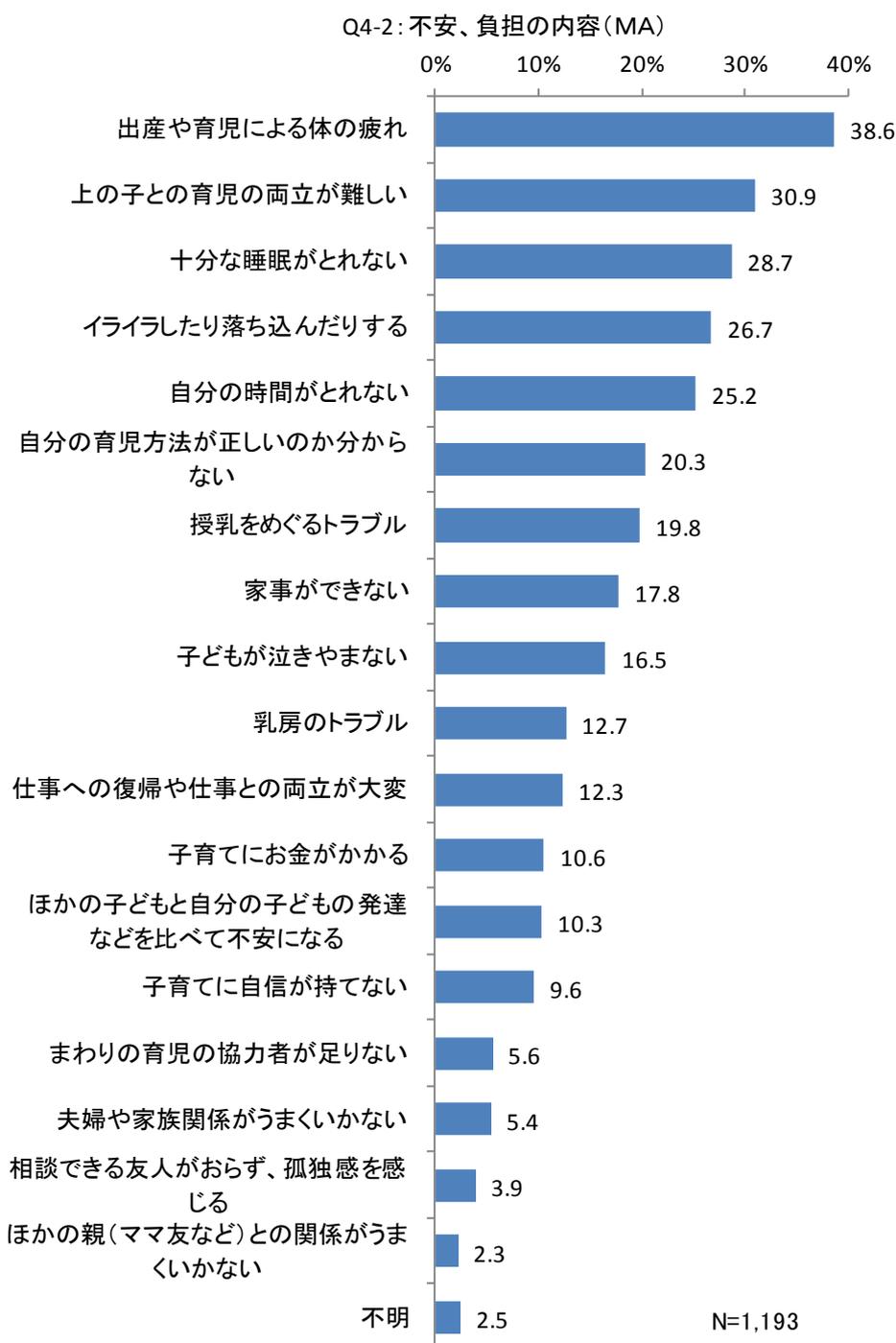
Q1-3: 子どもの数 (SA) × Q4-1: 産後に不安や負担 (SA)



Q3-1: 里帰りの有無 (SA) × Q4-1: 産後に不安や負担 (SA)



Q4-2：不安、負担の内容 (MA) (Q4-1で「1」、「2」、「3」と回答した人)

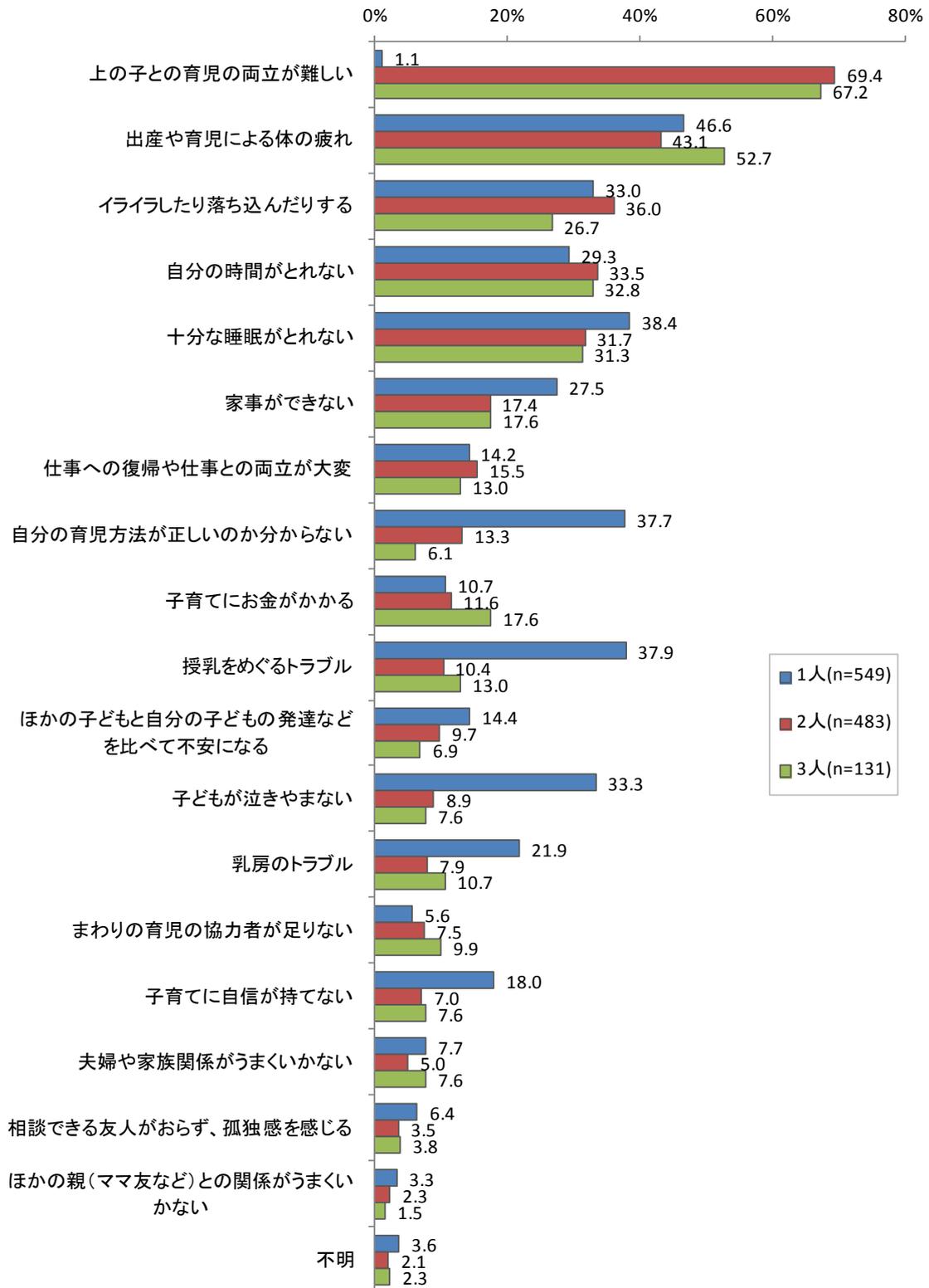


【調査結果】

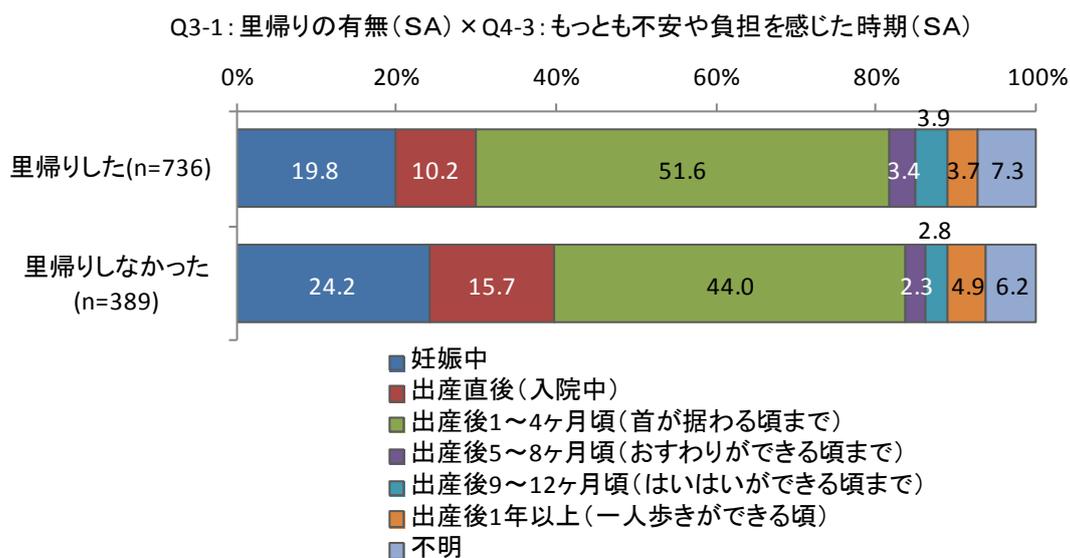
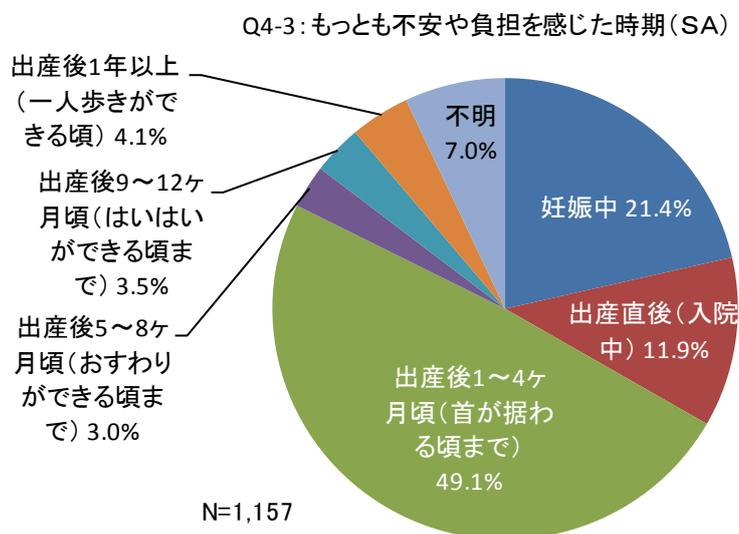
不安の内容としては、体のつかれが最も多く 38.6%が挙げている。次いで、上の子との育児の両立や睡眠不足、イライラ、自分の時間が取れない、等が続いている。

サンプル数が多い1人～3人の子どもの数で比較すると、子どもが1人の場合に、育児の方法、授乳、子どもが泣きやまないなど、不安と感じる項目が多くなっている。

Q1-3: 子どもの数 × Q4-2: 不安や負担の内容 (MA)



Q4-3：もっとも不安や負担を感じた時期（SA）（Q4-1で「1」、「2」、「3」と回答した人）

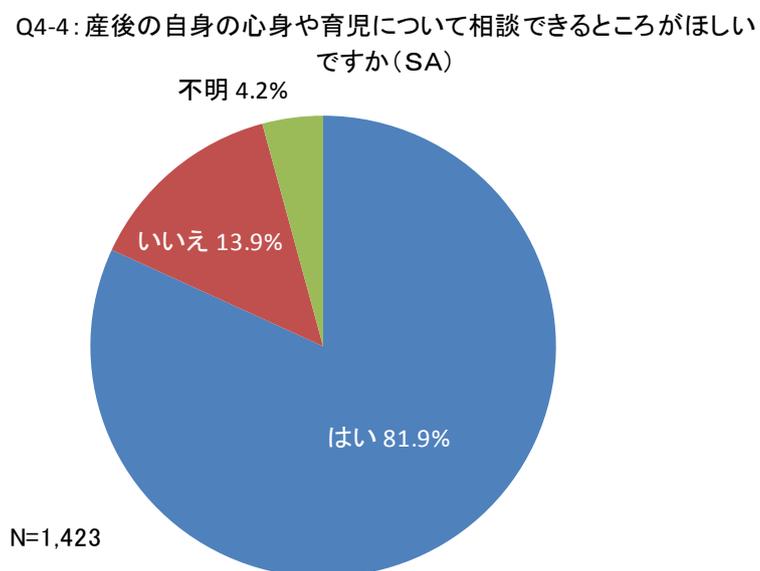


【調査結果】

最も不安や負担を感じた時期としては、半数近くの49.1%が「出産後1～4か月頃」と回答している。妊娠中21.4%、出産直後11.9%が続いている。

Q4-4：産後の自身の心身や育児について相談できるところがほしいですか（SA）

---



【調査結果】

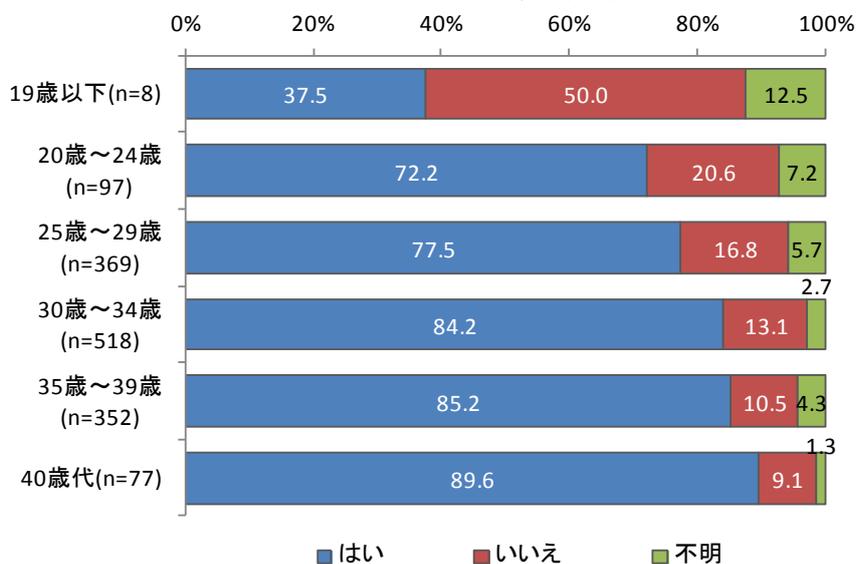
相談先については、81.9%が希望している。

年齢別に比較すると、年齢が挙げるに従って希望する割合が増加し、40歳～44歳では90%以上に達している。

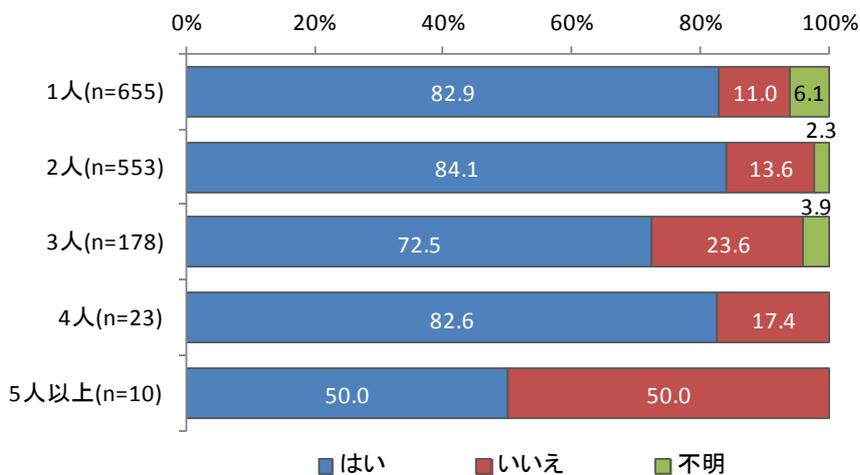
子どもの数による明確な差異は見られなかったが、4人以上のサンプル数が少ないため、3人以上である場合には、希望する割合が減少しているとも考えられる。

里帰りの有無については、里帰りをした場合に、希望する割合が高い。

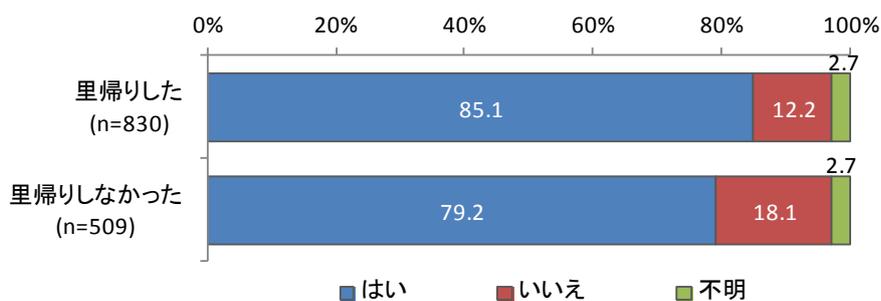
Q1-1: 年齢×Q4-4: 産後の自身の心身や育児について相談できるところがほしいですか(SA)



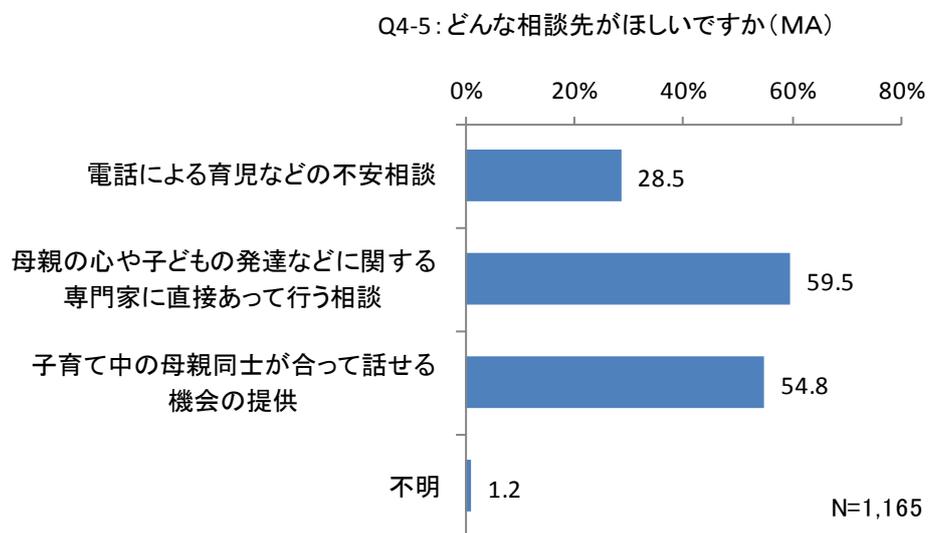
Q1-3: 子どもの数×Q4-4: 産後の自身の心身や育児について相談できるところがほしいですか(SA)



Q3-1: 里帰りの有無×Q4-4: 産後の自身の心身や育児について相談できるところがほしいですか(SA)



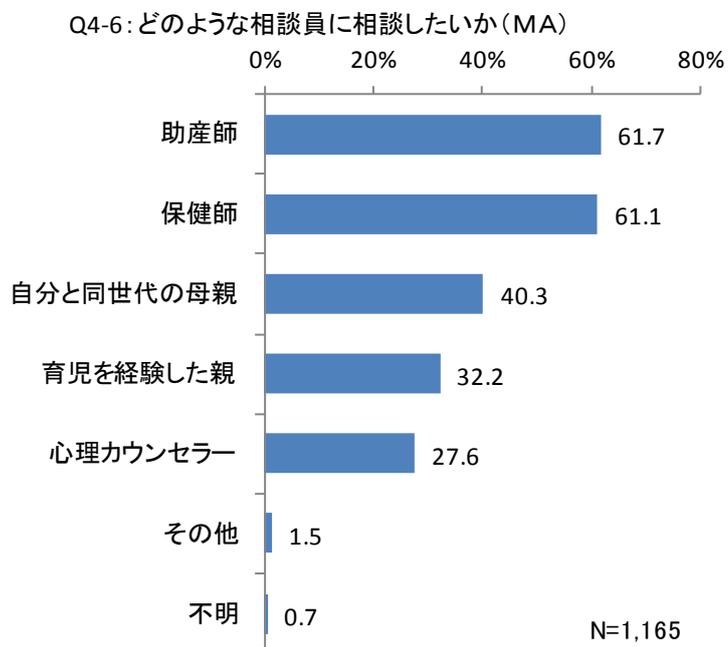
Q4-5：どんな相談先がほしいですか（MA）（Q4-4で「1. はい」と回答した人）



【調査結果】

相談先の内容としては、専門家への相談と母親同士が話をできる場を、過半数が挙げている。電話相談等については、28.5%にとどまった。

Q4-6: どのような相談員に相談したいですか (MA) (Q4-4 で「1. はい」と回答した人)



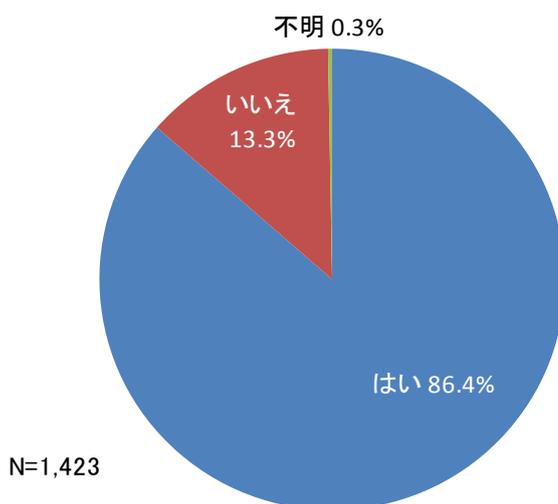
【調査結果】

相談相手としては、助産師や保健師といった専門家をあげた割合がほぼ同数で約 61%であった。同世代の母親が 40.3%で続いている。

Q4-7：産後の自身の心身や育児に関する支援を受けたいですか（S A）

---

Q4-7:産後に支援を受けたいか（SA）

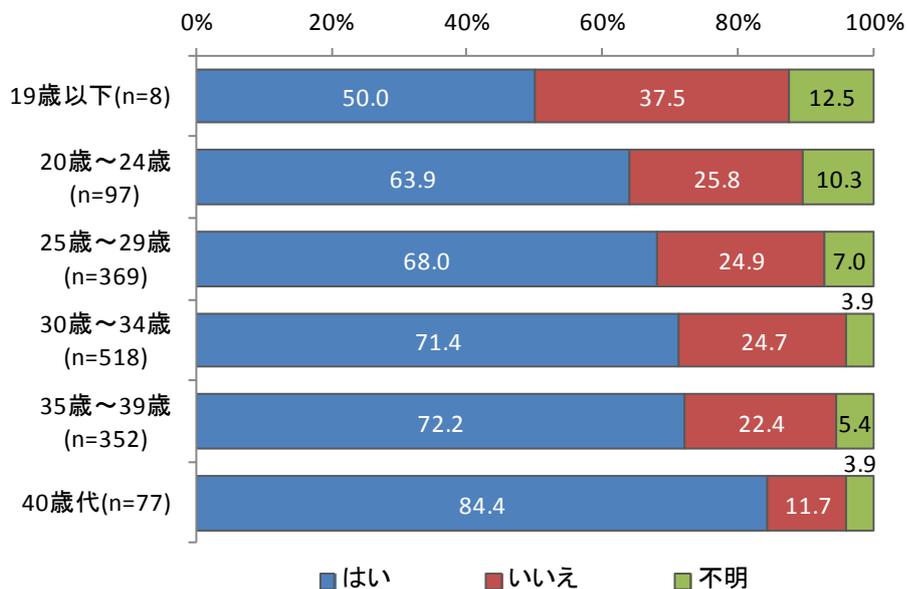


【調査結果】

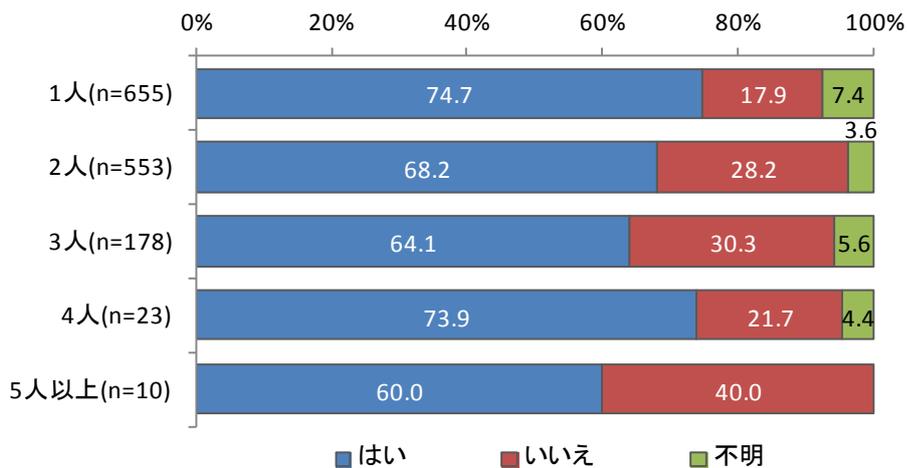
支援については、86.4%が希望しており、相談への希望を上回っている。

クロス集計結果については、相談に関する希望と同じ傾向であり、年齢別では年齢が挙げるに従って希望する割合が増加し、里帰りの有無については、里帰りをした場合に、希望する割合が高い。また、子どもの数については、人数が多い方が支援を希望する割合が減少している。

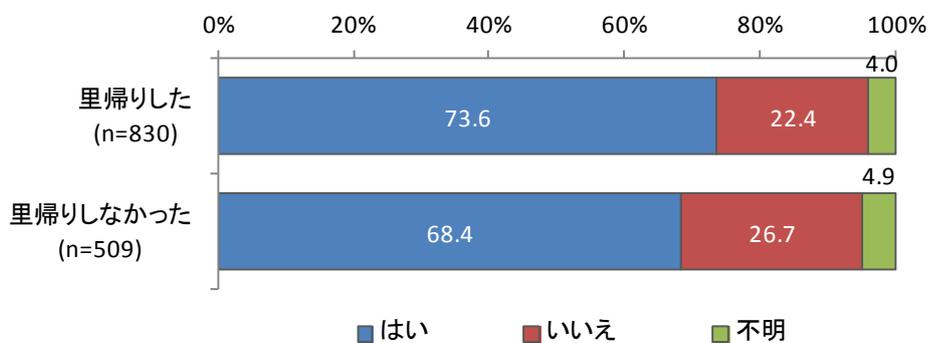
Q1-1: 年齢×Q4-7: 産後に支援を受けたいか (SA)



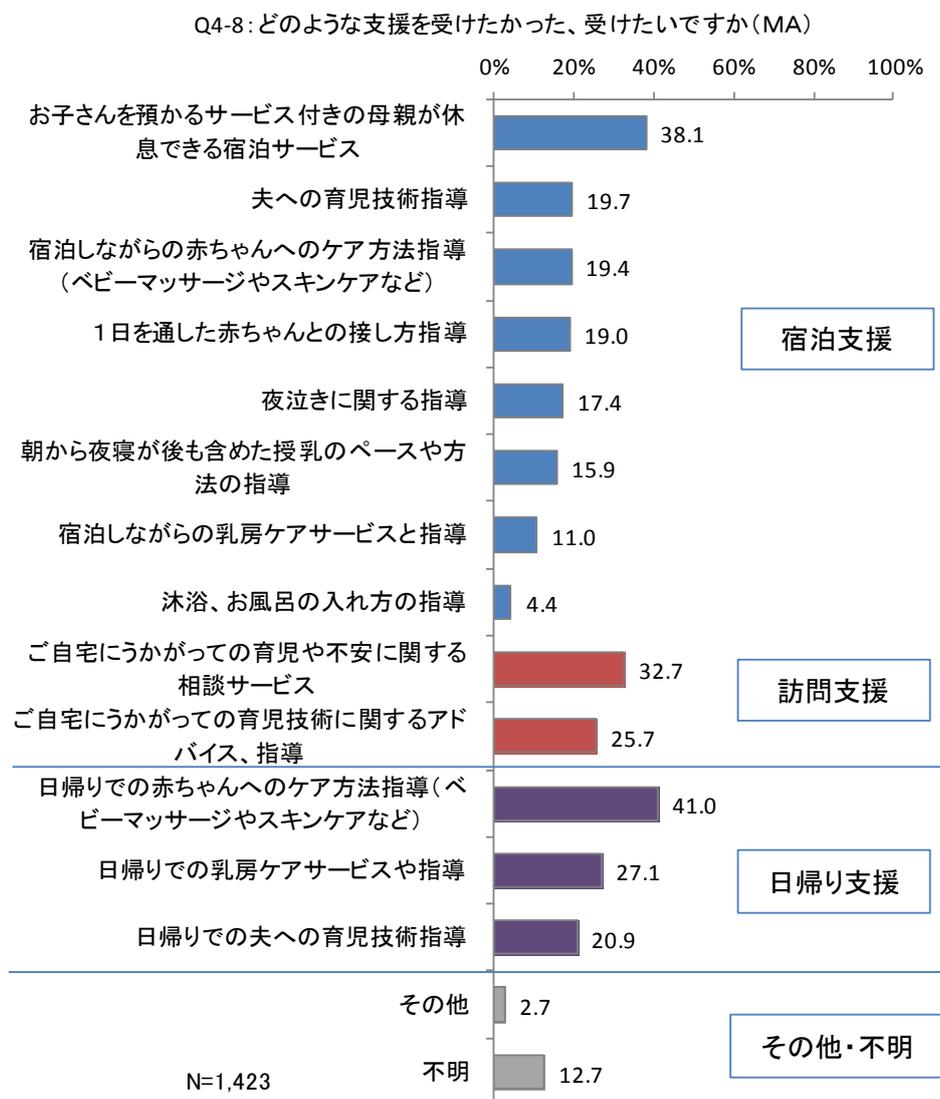
Q1-3: 子どもの数×Q4-7: 産後に支援を受けたいか (SA)



Q3-1: 里帰りの有無×Q4-7: 産後に支援を受けたいか (SA)



Q4-8：どのような支援を受けたかった、受けたいですか（MA）



カテゴリ別になんらかの支援を受けたいと回答した割合

カテゴリ	件数	%
宿泊支援 (1~8 のどれかに○)	947	66.5 %
訪問支援 (9 または 10 に○)	635	44.6 %
日帰り支援 (11~13 のどれかに○)	863	60.6 %
サンプル数	1423	100.0 %

## 【調査結果】

受けたい支援内容としては、宿泊支援の場合には、母親が休息できるサービスへの希望が多く 38.1%であった。育児指導等に関するサービスは、20%程度となっている。

訪問支援の場合には、相談を求める割合が多く 32.7%があげている。

日帰り支援の場合には、育児指導等の割合が高く 41.0%となっている。

宿泊、訪問、日帰りの各カテゴリについて、何らかの支援を受けたいと回答した割合をみると、宿泊支援と日帰り支援では 60%を超えている。一方、訪問支援は 45%程度であり、訪問よりは施設等に出向いて支援を受けることを望んでいる割合が高い。

年齢別に比較すると、宿泊支援の場合、母親が休息できるサービスについて、30歳代以上の方が回答率が高くなっている。相談支援では、育児に関するアドバイス等、訪問支援では、乳房ケア等について、同様に 30歳代以上の方が回答率が高い。

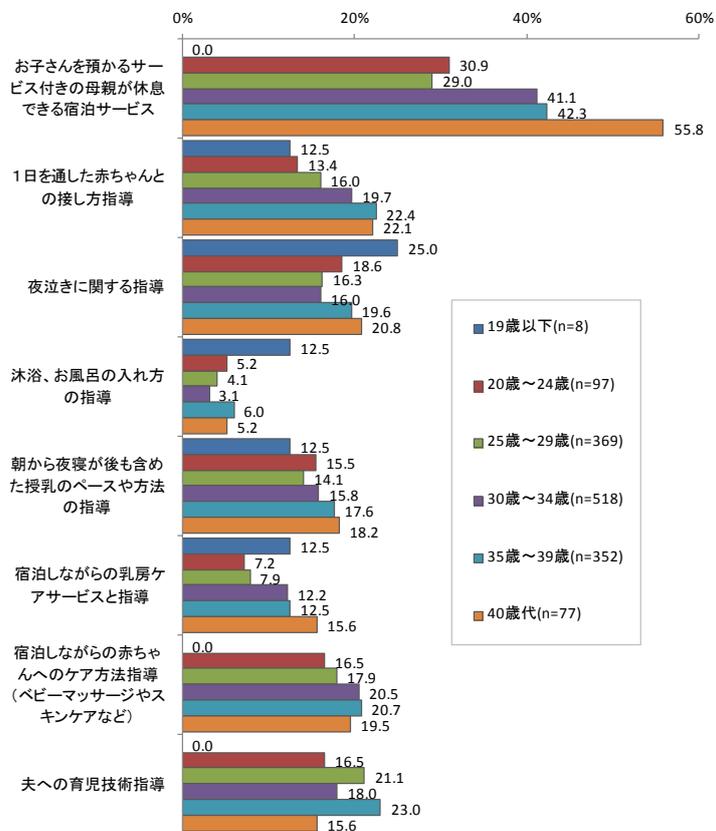
サンプル数が多い 1人～3人の子どもの数で比較すると、育児指導に関するサービスなど、子どもの数が増えると、回答率が低くなる項目が多い。一方、宿泊支援の母親が休息できるサービスについては、1人より 2人や 3人の方が回答率が高くなっている。

里帰りの有無については、子どもの数との相関が高いため、ほぼ同じような傾向になっている。里帰りありの回答は、子どもの数が少ない場合と同じ傾向であり、里帰りなしの回答は、子どもの数が多い場合と同じ傾向を示している。

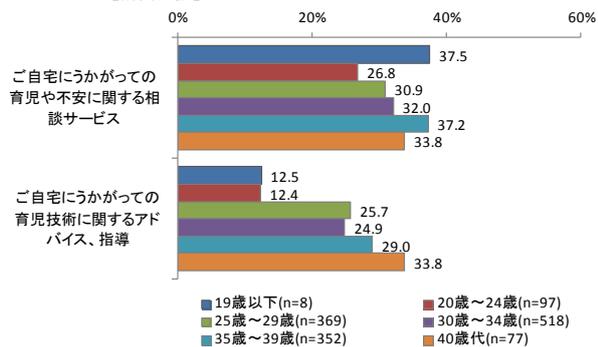
カテゴリ	件数
①リフレッシュなど心理的ケア、身体的ケア	16
母子ともにゆっくりできる内容の企画。温泉施設を利用して、自由に入浴、マッサージが受けられてランチもできるプランを考えていただけると嬉しいと思います。	1
ママエクササイズ 助成	1
ママのマッサージ、託児	1
ママの朝食を用意してくれるサービス。授乳でお腹が減るが、自分で作れず買いに行けず困る時がある。	1
ママ達で集まれる機会や場所の提供や食事会	1
産後の骨盤ケアなど	1
産後の母体の回復や不調の相談・指導。ヨガ教室など。	1
産後腰痛がひどかったので、整体や骨盤矯正体操など、産後の身体をケアする支援があったら嬉しいです。	1
心のケア、落ち込みやストレス	1
卒乳後の乳房ケアができる	1
日帰りでも母親が休息できるサービス	1
母親のマッサージ	1
母親の検診(血液検査、レントゲン)	1
母親の産後のケア、ヨガや骨盤体操、マッサージなどを受けられるなど。	1
訪問による、乳房ケアサービス	1
話を聞いてもらえるだけでいい。家事のサポート(買い物、保育園の送迎)	1
②育児指導など	6
離乳食指導等	2
義父母への育児指導。昔と今で違うこともあるので、話しをしてもらいたい。	1
祖父母への孫指導(食事面について)	1
祖父母も参加できる育児教室	1
訪問して、夫への育児指導	1
③託児	7
子どもを預かるサービス(温泉施設)	1
食事を作ったりする間に子守をしてくれる等	1
第2子以降、新生児期(生後1ヶ月)までの上の子の保育園等の送迎、体調不良時の通院時の付き添い	1
託児	1
日中、数時間無料で預かってくれるところ。リフレッシュに出かけたい。	1
病院内学級のように、体調が悪くても子どもを預かってくれるところ(都留みたいに)	1
病児保育	1
④その他	9
3人目は出産祝を100万円もらえる支援	1
お金	1
仕事復帰についての相談	1
町内にあまり子どもが少ないので、児童館やファミリーサポートといった他市町村では普通にあるものが何もない。公園などもなく、来るまで出かけないとどこにも行けない。子連れの母親同士が知り合えるような場所が欲しい。	1
電話での支援	1
日本にも産後院をもっと!	1
韮崎ニコリのようなセンターを希望	1
無記入	2
合計	38

<年齢別の支援希望内容>

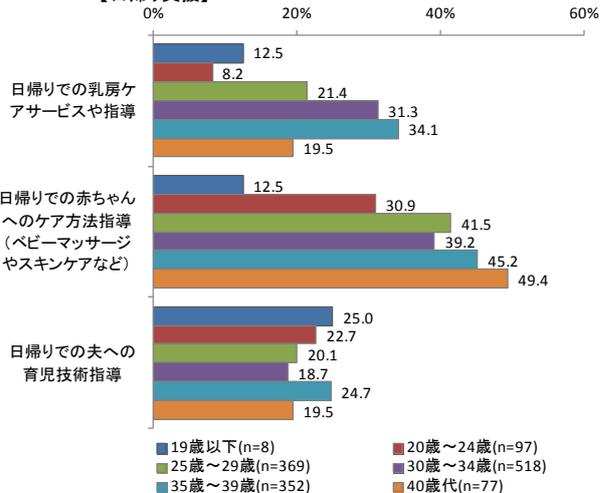
【宿泊支援】 Q1-1: 年齢×Q4-8: 希望する支援内容(MA)



【訪問支援】 Q1-1: 年齢×Q4-8: 希望する支援内容(MA)

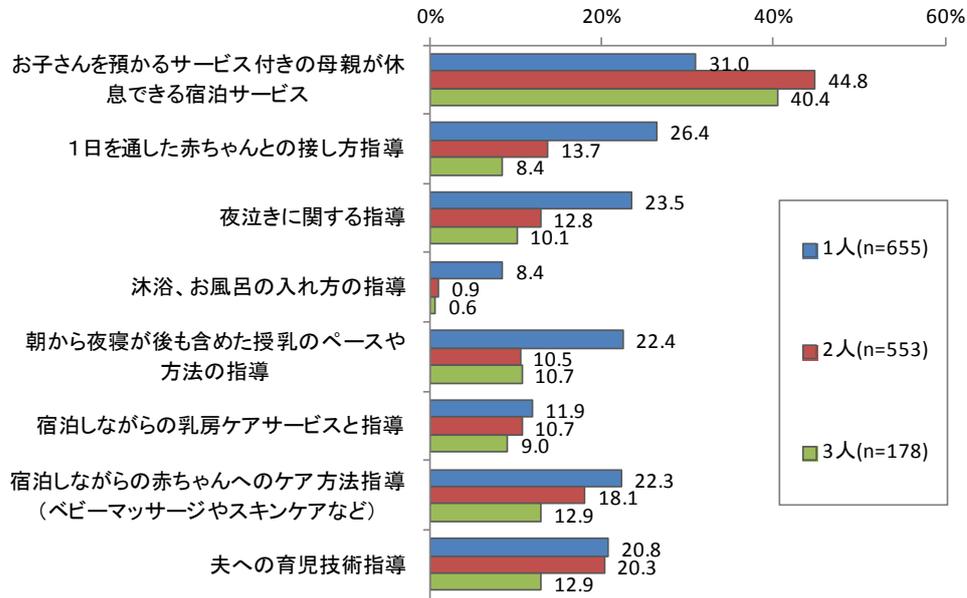


【日帰り支援】 Q1-1: 年齢×Q4-8: 希望する支援内容(MA)

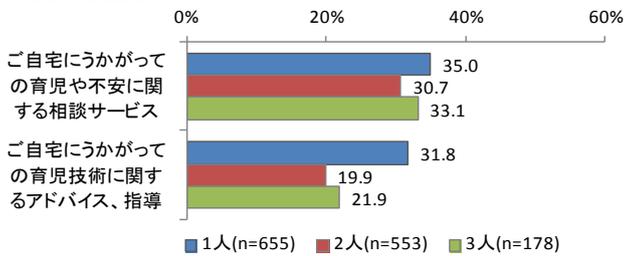


<子どもの数別の支援希望内容>

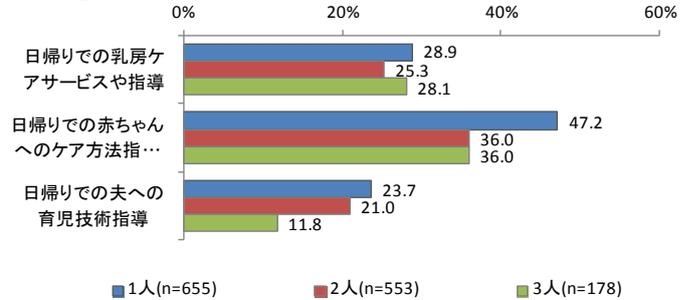
【宿泊支援】 Q1-2: 子どもの数×Q4-8: 希望する支援内容(MA)



【訪問支援】 Q1-2: 子どもの数×Q4-8: 希望する支援内容(MA)



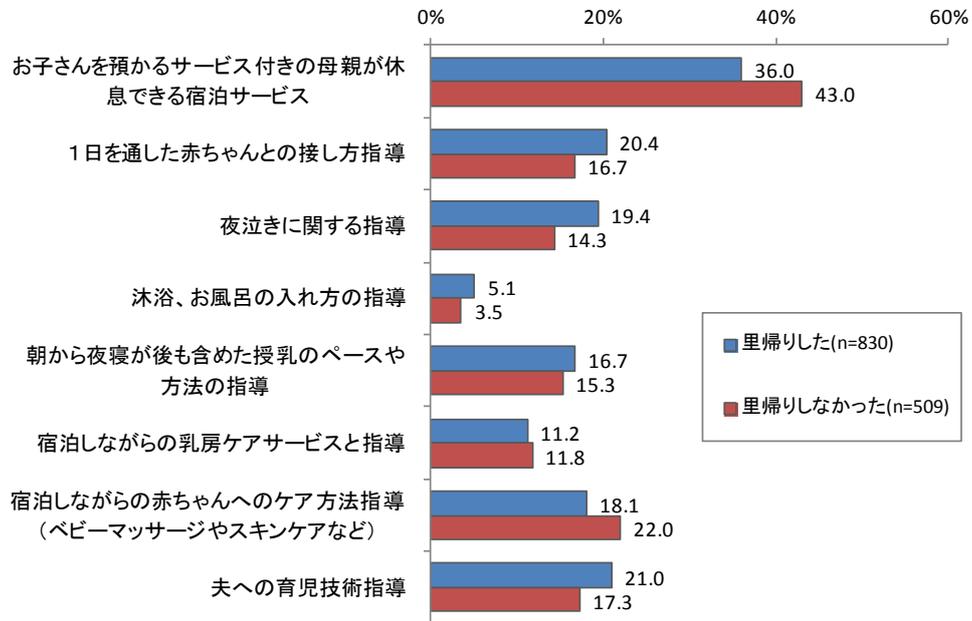
【日帰り支援】 Q1-2: 子どもの数×Q4-8: 希望する支援内容(MA)



<里帰りの有無別の支援希望内容>

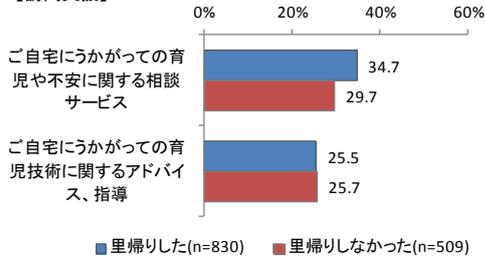
【宿泊支援】

Q1-3: 里帰り × Q4-8: 希望する支援内容 (MA)



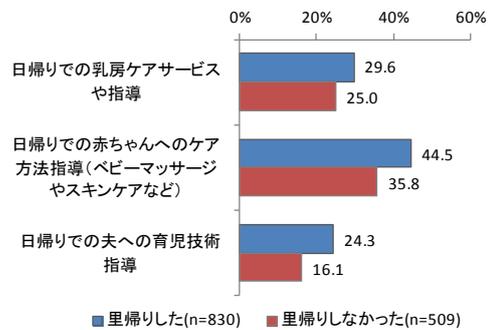
【訪問支援】

Q1-3: 里帰り × Q4-8: 希望する支援内容 (MA)



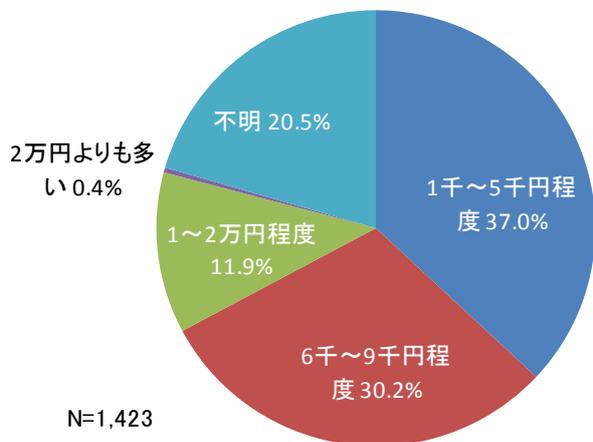
【日帰り支援】

Q1-3: 里帰り × Q4-8: 希望する支援内容 (MA)

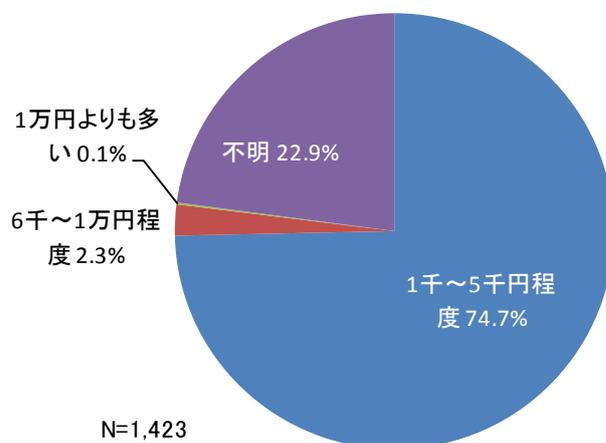


Q4-9：支援を受けるとして、支払ってよいと思える金額はどのくらいですか（SA）

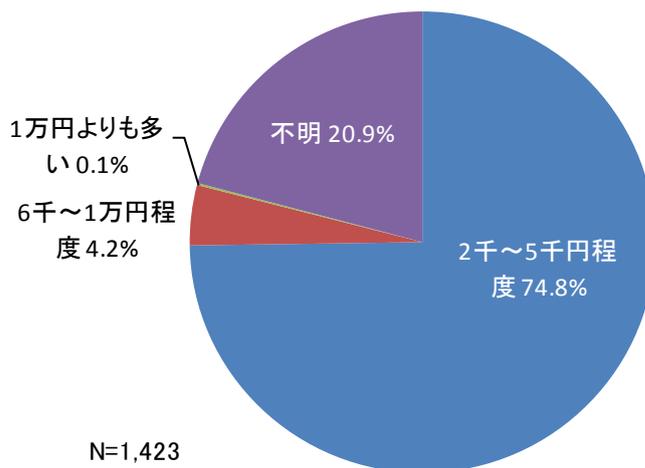
Q4-9:【宿泊して行う支援】希望金額（SA）



Q4-9:【訪問して行う支援】希望金額（SA）



Q4-9:【日帰りで行う支援】希望金額（SA）



【調査結果】

利用料金としては、宿泊の場合は、「1千円～5千円程度」が37.0%、「6千円～9千円程度」が30.2%であり、1万円未満が不明を除いた回答の大部分を占めた。

訪問や日帰りの場合は、「1千円～5千円程度」が約75%を占めており、5千円未満が大部分となっている。